

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 10 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22520698

研究課題名（和文） 中世後期守護権力構造の史料学的研究

 研究課題名（英文） The research for the *Shugo's* Power structure by material collecting in latter Middle Ages.

## 研究代表者

古野 貢 (FURUNO MITSUGI)

武庫川女子大学・資料館・学院資料室・主任

研究者番号：40382022

研究成果の概要（和文）：各守護の受発給文書の収集作業の結果、約 6,000 通を収集した。各守護の特色は、室町幕府内部での地位、分国配置（地理的・地域環境）、守護権力構造（守護代・奉行人・郡代など）の差により見いだし得た。今後はさらなる収集と、当該期の全体的理解に向けた検討を進める必要がある。

研究成果の概要（英文）：I am collecting about 6000 published and received materials of *Shugo* in this research. The feature of each *Syugo* found from the position of the *Muromachi-bakufu*, the states arrangement, the geographic environment, and the difference of *Shugo's* power structure, for example *Syugodai*, *Bugyonin*, and *Gundai*. The future plan of this research, collecting materials more and more, and proceed with investigate for latter Middle Ages in all understanding.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、中世後期、守護、史料

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、日本の中世後期における政治権力の構造や社会的機能を明らかにするために、室町幕府のもとに編成された守護の権力構造、存在形態について細川氏を対象に検討してきた。中世後期の政治史研究には、現在、主として幕府一守護体制のもとでの政治史理解を目指そうとする研究（畿内周辺地域を中心）と、戦国期大名権力（畿内以外の地域に出現）の検討を行うという二つの潮流があるが、特に近年、前者の守護研究が急速に

発展している。なかでも畿内近国地域は、戦国期大名権力研究を相対化しようとする研究動向（今岡典和・川岡勉・矢田俊文「戦国期研究の展望と課題」（『日本史研究』278、1985）、「戦国期守護論」とされる）を牽引し、播磨守護赤松氏、河内守護畠山氏、近江守護六角氏など、当該地域守護の実態的分析が進んでいる。また赤松氏・畠山氏については発給文書の帰納的研究がなされ、それぞれの権力編成のあり方を検討する準備が整っている（研究代表者 矢田俊文「室町・戦国期畠

山家・赤松家発給文書の帰納的研究」平成13～14年度科研費補助金研究成果報告書、2003、矢田俊文編『戦国期の権力と文書』（高志書院、2004）。

これらの研究は、従来、畿内近国地域の支配構造として通説的地位を占めていた、今谷明による「京兆専制」論（室町幕府内で将軍などに代わり、細川京兆家（惣領家）が実権を握り、専制的権力を行使して幕政を執り行ったとする理解。同『守護領国支配機構の研究』法政大学出版局、1986など）を批判的に継承し、細川氏権力を中心とした理解は、畿内政治史についての一面的理解にすぎないとする立場に立っている。

申請者は当該期幕府の中心的存在であった細川氏権力への検討を捨象したまま、畿内政治構造の本質的あり方を論じることは出来ないとする立場に立つ。細川氏については、畿内領国化の評価や庶流守護家の実体解明について研究が進展しているが、申請者は、このような研究状況をうけ、あらためて細川氏の権力構造を明らかにし、当該期の畿内政治・権力論を再構築しようと試みてきた（古野貢『中世後期細川氏の権力構造』吉川弘文館、2008）。

しかし、中世後期の守護研究が、地域の面でも権力構造の面でも畿内地域とそれ以外という、いわば二項対立的な構造となってしまうことが、当該期政治権力像の構築、理解の進展を妨げている。守護と戦国期大名権力との関わり、相克について検討されてこそ、当該期政治権力を全体として理解することが可能となる。

そこで各守護の権力構造や権力行使の方法、戦国期大名権力との関係などを一元的に理解するために、畿内周辺を分国とした細川氏や赤松氏などとともに、畿内以外の斯波氏、山名氏、一色氏、斎藤氏などの受発給文書を検討する必要がある。しかしその悉皆的調査・整理とその評価はいまだ途上である。

## 2. 研究の目的

室町幕府一守護体制下での各守護の権力構造や特質を明らかにすることを通して、中世後期の政治構造を全体として理解し、新たな中世後期守護像を構築する。

## 3. 研究の方法

### (1) 要旨

①室町戦国期に活動した各守護の受発給文書を網羅的に収集するため、対象となる文書が収蔵されている機関・施設・個人などへの調査、収集を行い、データベ-

スを作成する。

②収集、データ化した史料を用いて、各守護の特質や、他の守護権力との比較検討を行い、当該期政治権力の特質について検討を加える。検討にあたっては勉強会の開催、他研究会や学会での報告、シンポジウムなどを開催する。守護の受発給文書の収集を目的とするため、以下の方法で収集にあたった。

### (2) 研究体制と役割

研究代表者：古野 貢（室町戦国期細川氏研究）全体の統括、研究方針の確認、作業進捗状況の確認、史料調査・収集と検討、参考資料の作成、全体の位置づけ、報告書・論文の執筆

研究協力者：岡田謙一（室町戦国期細川氏研究）史料調査・収集と検討、参考資料の作成、報告書・論文の執筆

上記のメンバーで申請したのは、守護が受発給した文書の網羅的収集とその検討を行うという本研究課題の内容に鑑み、守護細川氏研究の専門家に依頼した。

研究代表者の古野は、細川氏の権力構造の解明を通じ、中世後期政治権力構造を全体として理解することを目指している。そのためには細川氏のみならず、他守護が受発給した文書の網羅的収集と検討が不可欠と考え、本研究を申請した。

研究協力者の岡田は、これまで明確でなかった守護の実名や相伝関係・婚姻関係などを、主に和泉守護家の人名比定を行うことで明らかにしてきている。こうした作業は史料の緻密な収集と分析が必要である。また他の守護の史料情報にも詳しく、方法論や史料の現蔵情報の共有などにおいて最適な人材であり、協力者をお願いした。

以上2名の協力体制のもと、平成22年度から斯波氏・山名氏などをはじめとする受発給文書の調査・収集と、その内容の検討、参考資料や報告書の作成を行う。

なお上記2名は、住居が大阪・東京と離れており、日常的に顔を合わせての相談・打ち合わせはしにくい状況にあるが、メールや電話、調査出張先、あるいは集中的に検討会を設けるなどして緊密な連携をとる。またそれぞれの地域で独自に史料の調査やその検討を行う。

### (3) 平成22年度の計画

#### ①刊行史料の調査

『大日本史料』・『大日本古文書』・『大

日本古記録』などの刊行史料から、各守護に関わる受発給文書をコピーする。これを集約し、必要事項をデータベースに登録する。

②原本・写真史料の調査

- 1) 福井、富山・石川・長野・愛知・京都などの各県（斯波氏分国）、及び東京国立公文書館や東京大学史料編纂所などの史料所蔵機関の史料目録などを用いて調査史料の一覧を作成し、調査の目安・優先順位をつける。利用可能な機関から順次調査を行う。
- 2) 作成した調査史料一覧に従い、所蔵機関にて史料検索、調査を行う。可能な限り写真撮影、デュープの作成を行う。
- 3) 調査・抽出した史料は筆耕し、必要事項をデータベースに登録する。

③作業進捗状況の打ち合わせ・検討会  
作業進捗状況、問題点・課題を確認し、事後の調査・研究に反映させる。

(4) 平成 23 年度以降の計画

平成 23 年度

① 刊行史料調査

『史料纂集』・『史料大成』、および自治体史などの刊行史料から、各守護に関わる受発給文書の抽出を行い、データベースに登録する。

②原本・写真史料調査

- 1) 愛知・岐阜、静岡、滋賀、兵庫、和歌山、佐賀、熊本、大分、広島、山口、岡山、鳥取、島根などの各県（山名氏・一色氏・大内氏、京極氏など分国）、東京大学史料編纂所、宮内庁書陵部などの史料所蔵機関にて史料検索、調査を行う。可能な限り写真撮影、デュープの作成を行う。東大など利用制限がある機関の史料は、他機関調査で補足する。
- 2) 調査・抽出した史料は筆耕し、必要事項をデータベースに登録する。

③調査史料整理、データベース作成作業  
史料所蔵機関での調査、刊本史料調査で得られた情報・成果から、各守護に分類し、「家分け」史料一覧の作成に着手する。本年度は斯波氏、細川氏を主に行う。

④調査史料の分析・検討

収集・調査した史料を検討し、中世後期に各守護が果たしてきた政治的・社会的役割や、権力的動向について検討を行う。またすでに公表されている他

の守護（畠山氏・赤松氏）などとの比較検討も行う。

⑤作業進捗状況の打ち合わせ・検討会  
作業進捗状況、問題点・課題を確認し、事後の調査・研究に反映させる。

平成 24 年度

①刊本史料遺漏分の調査

刊本史料の遺漏分・未調査分の調査収集を行う。本年度まで調査できなかった機関での調査を行う。

②原本・写真史料遺漏分の調査・検討

- 1) 各県、国立国会図書館、東京大学史料編纂所などの史料所蔵機関にて行った史料検索、調査の遺漏分の調査収集を行う。可能な限り写真撮影、デュープの作成を行う。
- 2) 調査・抽出した史料は筆耕し、必要事項をデータベースに登録する。

③調査史料整理、データベース作成作業  
史料所蔵機関での調査、刊本史料調査で得られた情報・成果から、各守護に分類し、「家分け」一覧の作成を進める。本年度は山名氏、大内氏、京極氏などを主に行う。

④史料データの検討

守護ごとに作成してきた受発給史料データベースを整理し、「中世後期守護家分け受発給史料データベース」を作成する。

⑤シンポジウムの開催

調査の結果得られた成果や進捗状況を明らかにするために、12月に東京でシンポジウムを開催する。シンポジウムには斯波氏や山名氏、一色氏、大内氏など各守護研究者をゲストスピーカーとし、本研究成果の意義と、各守護研究、および中世後期政治権力構造についての課題について検討を加える。

(6) 報告書の刊行

これまでの調査・研究成果を公表するために、報告書を刊行する。報告書にはデータベースのほか、研究代表者・研究協力者をはじめ、検討会などに加わった研究者の成果も掲載する。

4. 研究成果

- (1) 収集した各守護の受発給文書の概数は次の通り 斯波氏 800 通、一色・上杉氏各 500 通、大内氏 700 通、畠山氏 150 通、山名氏 450 通、土岐氏 250 通、京極氏 300 通、六角氏 40 通、小笠原氏 50 通、仁木氏 150 通、今川氏 320 通、渋川氏 70 通、細川氏 1,200

通

- (2)指摘できる点 幕府内部での位置(管領など)分国配置(地理的・地域環境)、守護権力構造(守護代・奉行人・郡代など)の差により、受発給文書の内容・量に大きな差が生じている。
- (3)今後の課題と展望 ①各守護の受発給文書の収集は未だ途上であるため、各守護の文書のさらに精緻な収集を継続する必要がある。②収集した史料を他守護のものと同量・内容の面から比較検討し、幕府内での各守護の位置、役割、機能を明らかにする。③あわせて中世後期の政治構造のあり方について、中央(幕府支配)と地方(各守護支配)を接合する地域理解の側面からも重視して、その特質を明らかにすることを目指す。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

- ①古野 貢、守護権力論からみた岸和田古城・岸和田城、ヒストリア、査読有、237号、2013、pp38-47
- ②古野 貢、地域支配における室町幕府一守護体制とその変質について—細川京兆家分国讃岐国を素材に、戦国・織豊期の西国社会、査読有、2012、pp253-279
- ③古野 貢、末柄・萩原報告についてのコメント、ヒストリア、査読有、229号、2011、pp104-113

[学会発表](計3件)

- ①古野 貢、守護権力論からみた岸和田古城・岸和田城、大阪歴史学会中世支部会、2012年7月1日、クレオ大阪南
- ②古野 貢、末柄・萩原報告についてのコメント、2011年度大阪歴史学会中世支部会報告、2011年6月26日、神戸大学
- ③古野 貢、「高国派守護」細川氏と備中国、岡山地方史研究会例会報告、2011年1月29日、就実大学

[図書](計4件)

- ①古野 貢、中世後期守護権力構造の史料学的研究(科研費報告書)、大和出版印刷、2013、450頁
- ②古野 貢、和泉市史・テーマ編・原始・古代・中世、和泉市、2013、650頁
- ③古野 貢、戦国・織豊期の西国社会、日本史史料研究会、2012、1154頁

- ④古野 貢、伊賀市史・通史編・古代・中世、伊賀市、2011、645頁

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

古野 貢(FURUNO MITSUGI)  
武庫川女子大学・資料館・学院資料室・主任  
研究者番号：40382022

##### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4)研究協力者

岡田謙一(OKADA KENICHI)  
白根記念渋谷区郷土博物館・文学館・学芸員